

6 非リベラル国家宣言

2017年3月28日、ハンガリー議会は高等教育法（2011年法律第204号）に対する修正法案の審議を始め、一週間後の4月4日に賛成123、反対38で可決した。新教育法は別名CEU（中欧大学院大学）法と呼ばれ、同大学の閉鎖が目的であると言われている。ジョージ・ソロスが1991年にプラハで創設したCEU（登記はニューヨーク州）は、1993年以降、ブダペストを拠点とする。

新教育法は、ハンガリーにあるEU（欧州連合）域外の大学に対して、本国でのキャンパス設置を求めた。二八ある外国の大学で、本国にキャンパスを持たないのはCEUだけである。それゆえ、同大学がハンガリーでの存続を希望するなら、2018年2月15日までにキャンパスをアメリカに設置する必要がある。

オルバン・ヴィクトル首相は法案可決後のラジオ番組（4月16日の復活祭インタビュー）で、新教育法はハンガリーとソロス財団の「最終決戦」のための立法である、と述べた。なぜなら、「ヨーロッパ圏外からの人口移動を助長するソロス帝国」は、「外国の金で買われた政治活動家集団」を使ってハンガリーの安全保障を脅かし、キリスト教ヨーロッパの文化変容を企てているからだ、と⁽¹⁾。その意味で新教育法の制定は、「外国の手先」あるいは外国の資金による研究機関へのフィデス政権の「聖戦」であった。

オルバンの側近の歴史家で、第一次フィデス政権が政権末期に開設した「テロルの館」の館長を勤めるシュミット・マリアは、フィデス政権の聖戦を正当化すべく、オルバンがラジオ番組に出演した当日、小見出し九つから成る論説を政府系のウェブサイトに掲載した⁽²⁾。その中で彼女は、CEUは「他人を破滅させて金もうけをする投機家」のソロス⁽³⁾に「人材を安定的に供給する」教育機関だ⁽⁴⁾、と決め付ける一方、ソロスは金で買われた左翼やリベラル派を使って、移民や難民の大量流入を阻止し、超大国の強圧的言動と戦い、自国の主権を守ろうとする政党（フィデスの意）に、「ポピュリストだ、ファシストだ、ナチだ」とレッテルを貼る、と憤慨する⁽⁵⁾。

ソロス財団をソ連の後継と捉え、ソロスと左翼を同義と見るシュミットにとって、ポリティカル・コレクトネス（政治的公平）や環境保護、フェミニズムや同性婚や性的マイノリティの権利擁護、あるいは移民・難民への支援やアメリカの公民権運動は左翼的なものである⁽⁶⁾。金で買われた政治家として、彼女はアテナ研究所（2010年設立）の出版物に寄稿する、別な政治もあり得る（LMP）党のメセリッチ・タマーシュや、みんなで時代を変える（Együtt）党のセレーニイ・ジュジャンナを挙げているが⁽⁷⁾、オルバン首相や上述したコヴァーチ議員と同様、品の良い議論とは言えない。

ソロス財団に対するフィデス政権の聖戦は、2014年7月26日、トランシルバニアのハンガリー系マイノリティの集会（ルーマニアのバイレトウシュナド市の夏季セミナー）における非リベラル国家宣言の中で表明された。論理的には飛躍の多いアジテーションに過ぎないが、オルバンがハンガリーの非リベラル化を告知したという意味で、講演記録は歴史的な文書である⁽⁸⁾。

オルバンは西欧諸国やアメリカのドグマ⁽⁹⁾であったリベラル民主主義の時代は終わった、と説く。彼が批判するリベラル民主主義は、国内的には 1994 年から 1998 年、及び 2002 年から 2010 年までのリベラル左派（社会党と自由民主連盟⁽¹⁰⁾の連立）政権を指す。（ハンガリー経済は 2008 年のリーマン・ショックと、翌年の欧州ユーロ危機に直撃された）。オルバンのレトリックに従えば、「リベラル民主主義が国益や国民の財産の保護を無視した」⁽¹¹⁾結果、ハンガリーは EU 域内の経済的最下位グループに転落し、ハンガリーは債務国に、ハンガリー国民は「債務奴隷」になった⁽¹²⁾。それゆえハンガリーは、国益を守れないリベラリズムと決別し⁽¹³⁾、「シンガポールや中国、インド、ロシア、トルコ」といった経済的に急成長しつつある非リベラル国家を目指す⁽¹⁴⁾。（オルバンはそれを「勤労に基づく国家」と命名⁽¹⁵⁾。）

しかし、外国の金で買われ、外国の利益のために働く NGO が、ハンガリー政府の決断をことごとく妨害するとオルバンは断じ、「そんな NGO の裏の顔が誰であるかは、いずれ明らかになる」と講演を結んだ⁽¹⁶⁾。最後に笑うのはソロスではない（*Ne hagyjuk, hogy Soros nevéssen a végén!*）という猛烈なネガティブ・キャンペーン（一説によれば、2017 年だけで 1 億ユーロを支出）から、NGO の裏の顔がソロスと、彼が主宰するオープン・ソサエティ財団であることは明らかである。

オルバンの非リベラル国家宣言は、シュミットが一月前に発表した「過去のしがらみの中で」と題する論説⁽¹⁷⁾と連動している。論説の主旨は、リベラル左派の「知的テロル」批判⁽¹⁸⁾と、「ユダヤ人は自らハンガリー国民であることを放棄した」というユダヤ人論⁽¹⁹⁾である。リベラル左派の「知的テロル」に関して言えば、ポリティカル・コレクトネスを擁護するリベラル左派知識人⁽²⁰⁾は、「二一世紀の現実を直視せず、1968 年当時の思想と価値観に閉じこもっている」⁽²¹⁾とシュミットは言う。彼女が指摘する 1968 年世代とは、中・東欧ではプラハの春、西欧ではフランスの五月革命、アメリカではベトナム反戦やアフリカ系の公民権運動に関わったリベラル左派の意であろう。シュミットはソロス系 NGO を、1968 年世代の系譜に連なる「知的テロリスト」と見ている。

「ユダヤ人は自らハンガリー国民であることを放棄した」というシュミットのユダヤ人論は、ホロコーストをめぐる論争の中で提起された。2014 年、フィデス政権はドイツ軍のハンガリー占領 70 周年にあたり、ドイツ軍による犠牲者追悼の記念碑をペストの自由広場に建てた。これに対してユダヤ人団体は、ホロコーストに対するハンガリー政府と国民の責任を糊塗するものである、と抗議した。シュミットは、「ハンガリー人に降りかかった全ての悲劇を、国民共通の悲しみではないかのように振舞う」ユダヤ人の態度が、彼らと我々の間に一線を画すのだ、と断じた⁽²²⁾。

こうした論争は二十年前に遡る。ハンガリーではホロコースト 50 周年の 1994 年、リベラル左派政権がハンガリー政府の協力政策を謝罪した。民主フォーラム政権の外相で、フィデス政権時に駐米大使を務めた歴史家のイエセンスキー・ゲーザも、同年、ホロコーストをめぐるリベラル左派のサボー・ミクローシュと対立した⁽²³⁾。その当時の主張を、イエセン

スキーは2012年『生活と文学』に公表している⁽²⁴⁾。彼はユダヤ人にとってのホロコーストと、ドイツ軍占領下のハンガリー人の悲劇を重ね合わせて、それをハンガリーにおける「二重の悲劇」と呼ぶ。公表された論説に従えば、彼はドイツ軍の占領下で国家機関とハンガリー人が、傀儡政権の命令でユダヤ人から財産を奪い⁽²⁵⁾、彼らを貨車に乗せて国外に移送したと認める⁽²⁶⁾。しかし、ハンガリー人を「罪深い国民」と規定するリベラル左派に彼は我慢できなかった⁽²⁷⁾。

それまで二重君主国時代を研究テーマにしていたシュミットは、1980年代半ば、すなわち三十過ぎからユダヤ史研究に転じた。上述した「過去のしがらみの中で」の表現を借りれば、「アウシュヴィッツに行ったことのある」⁽²⁸⁾ラーンキ・ジェルジに師事した。その後、ソロス財団からも奨学金を得て、イスラエルのヤド・ヴァシェム（ホロコースト）研究所やテルアビブ大学、及びドイツに留学した。当時の西ベルリンで行なった講演（1988年4月15日）は、著名なユダヤ史研究者たちの論考と一緒に、『ユダヤ人問題について』と題する論集に収録されている⁽²⁹⁾。

十年後、歴史修正主義に変節したシュミットは、自国の負の過去に対する批判を拒絶するフィデスのイデオログになった。第一次フィデス政権が発足した1998年、シュミットは『独裁は悪魔の馬車でやって来る』という著書⁽³⁰⁾でドイツ軍とソ連軍によるダブル占領史観を開示し、ハンガリーは占領下で主権を失ったため、ユダヤ系市民の多くを保護できなかったが、労働奉仕隊⁽³¹⁾に召集された者はアウシュヴィッツに移送されずに済んだ、と強弁した⁽³²⁾。

シュミットのダブル占領史観は、2011年4月18日に採択された新憲法（名称は基本法）に反映された。新憲法の前文は、1944年3月のドイツ軍による占領以降、自由な選挙によって選出された議会が登場する1990年5月まで、ハンガリーは「外国の占領下にあったため、自決権を喪失していた」と明記し⁽³³⁾、ホロコーストを含むその間の出来事にハンガリーは責任を負わない、と暗に言う。イエセンスキーも、「県知事の七割が、市長の三分の二が入れ替えられ、軍の要職もドイツ系や矢十字党寄りの人物で占められたハンガリーを、主権国家と呼べようか」と、新憲法前文の歴史観を擁護した⁽³⁴⁾。

フィデスは右傾化を重ねることで保守陣営のみならず民族派をも代表し⁽³⁵⁾、議会で三分の二以上の絶対多数を獲得した2010年以来、憲法を改定して司法や行政やメディアの独立性を奪い、市場経済にネポティズムを持ち込んだ。選挙制度を与党に有利なように変更し、銀行を政府の管理下に置き、大統領の地位を低下させ、議会の役割を制限した。2018年末には、改正労働法で長時間労働を認め、それまで年間250時間を上限としていた残業を、400時間まで可能にした。

オルバンは非リベラル国家なる概念を、ファリード・ザカリア（国際問題評論家）から学んだのであろうが、ザカリアによれば、非リベラル民主主義の最大の危険性は、リベラル民主主義自体に対する懐疑の念である⁽³⁶⁾。にもかかわらず、2018年4月の総選挙におけるフィデスの圧勝（199議席中133議席）を受けて、ナジ・エルヴィン（元ヨッビクの創設メン

バー)ら民族派の世論は保守主義の名の下に、「個人の権利よりも、家族や民族や宗教に基づく伝統的共同体への義務が優先する」と、オルバンの非リベラリズムを支持する⁽³⁷⁾。

ストップ・ソロス法

「ハンガリー政治 2018」は、フィデス圧勝の三要因の一つに反移民・難民キャンペーンを挙げている⁽³⁸⁾。2018年春の選挙に、オルバンは選挙綱領を発表せず、如何なる討論にも参加しなかった⁽³⁹⁾。そして、移民の行列に「ストップ」と書いた政府広告を打ち、ソロスの両隣にヨッビク党首と社会党の元首相を並べて、ソロスと野党指導者は「国境のフェンスを破って、難民を流入させようとしている」と煽る巨大な看板を全国各地に立てることで、争点を反移民・難民=反ソロスにしぼった。

「ハンガリー政治 2017」によれば、難民への恐怖や EU の難民割当と CEU 問題を結び付ける手法は、フィデス支持の知識人を離反させたが、選挙の帰趨は知識人のサロンではなく、地方・農村の庶民が握っているとフィデス指導部は考えていた⁽⁴⁰⁾。

こうしたキャンペーンの延長線上に、「ハンガリーは移民の国にはならない」と銘打つ法案（通称ストップ・ソロス法）が、2018年6月20日、国会で可決された。同法は、不法移民や難民を支援する個人や団体に刑事罰を科す一方、外国から提供された活動資金には二五パーセントの課税を明記した。その結果、オープン・ソサエティ財団は8月、活動拠点をベルリンに移転し、CEUも12月、ハンガリーから撤退すると公表した。このような文脈からすれば、フィデスの反ソロス・反 NGO ・反 CEU 政策は、ヨッビクの支持層を奪うための単なる選挙戦術ではなく、非リベラル国家建設の試金石であったと言えよう。

「ハンガリー政治 2018」が挙げたフィデス圧勝の他の二要因は、（政権による破壊であったとしても）民主主義制度の形骸化と野党の分裂である⁽⁴¹⁾。後者に関して言えば、かつて「建設的野党」と見ていたヨッビクを、フィデスは最大の攻撃目標にした。その結果、ヨッビクの党首ヴォナ・ガーボルは、同性愛者であるとネガティブ・キャンペーンの標的にされた⁽⁴²⁾。2016年以降、穏健化を図ったヴォナは、「ヨッビクが政権を担うためには実務能力が必要だ」と党内の急進派を指導部から遠ざけた⁽⁴³⁾。彼はユダヤ教の「ハヌカ」の式典（冬の光の祭り）に対して祝辞を述べ⁽⁴⁴⁾、CEU法を批判し⁽⁴⁵⁾、2018年の選挙期間中、ユダヤ系知識人の集う「スピノザ文化センター」に現れた⁽⁴⁶⁾。こうした行為が地方支部の反発を招き、所属議員から批判された。党内の軋轢は離反者による新党の結成となり、ヨッビクは事実上分裂した⁽⁴⁷⁾。

結語にかえて

最後に、非リベラル国家宣言と 2010 年 5 月 22 日国会に提出された国民的協和綱領の関連について言及し、結語にかえる。

同年 4 月 26 日、オルバンは三分の二の議席を確保した総選挙を「投票所革命」(fűlkeforradalom) と呼び、「ハンガリーはオリガルヒ体制を打倒した。本日より、ハンガリーは新しい政治・経済システム、すなわち国民的協和体制を構築する」と宣言した。上記のオリガルヒ体制とは、第二一回臨時党大会(2006 年 11 月 25 日)の記述に従えば⁽⁴⁸⁾、「外国人の投資を基に、ハンガリーで経済的利益を享受する一部の大企業」の意であり、「生き残りに懸命な中小規模の民族資本」がその対極に位置する。

オルバンは投票所革命を「新しい社会契約」と見なし、協和体制構築の根拠とした⁽⁴⁹⁾。しかし、協和綱領の大半は「勤労・祖国・家族・保健・秩序」といった新鮮味に欠ける用語で占められ、ハンガリー社会が直面する教育問題や失業問題、多発する犯罪や経済格差の拡大による社会の分解は、過去八年間のリベラル左派政権の「無秩序な自由化」路線のせいとされた⁽⁵⁰⁾。

国民的協和体制の目的は、もう一度ハンガリーが国際社会から敬意をもって遇せられるよう、ハンガリーの威信を回復することであった⁽⁵¹⁾。そのためオルバンは、EU との関係を見直し、東方諸国との連携を模索すると言う⁽⁵²⁾。協和綱領を見る限り、東方政策は「中国やロシアやインド、及び経済発展の著しい東アジア諸国との通商関係」構築の域を出ない⁽⁵³⁾。

(これは 2010 年の選挙綱領と同趣旨である。) 東方政策の対象国は、非リベラル国家宣言で名指しされた国々(シンガポール・中国・インド・ロシア・トルコ)と重複するが、協和綱領は各国の政治手法にまで踏み込んではいない。

フィデスのその後の強権政治は、「強いハンガリーを再建するには、強い政府が必要である」⁽⁵⁴⁾という協和綱領のレトリックを自己目的化した結果である。しかし、たとえ過度に権威主義的であっても、それだけで批判されることはない。彼らが批判されるべきは、「内なる敵」を作為する扇動政治や、負の過去に対する責任を認めない歴史修正主義のゆえである。新保守主義の系譜は国民概念を狭小化するが、ハンガリー史には包摂的な国民概念に立脚し、排外主義を自制する人々がいたことも忘れてはならない。

注 6 非リベラル国家宣言

(1) ハンガリー政府の公式ウェブサイト *Website of the Hungarian Government* [2017年4月16日] "When it comes to the security of the Hungarian people, there can be no compromise" (<http://www.kormany.hu/en/the-prime-minister/news/when-it-comes-to-the-security-of-the-Hungarian-people-there-can-be-no-compromise>), p. 1. *Kormányzat* [2017年4月18日] "Orbán Viktor interjúja a Kossuth Rádió 'Vasárnapi Újság' című műsorában" [4月16日の復活祭インタビュー] (<http://www.kormany.hu/hu/a-miniszterelnok/beszedek-publikaciok-interjuk/orban-viktor-interjuja-a-kossuth-radio-vasarnapi-ujsg-cimu-musoraban>), p. 1.

(2) *Látószög* [2017年4月16日] Schmidt Mária, "A baloldal sírásója" [左翼の墓掘り人] (http://latoszogblog.hu/blog/a_baloldal_sirasoja?utm_source=mandiner&utm_medium=link&utm_campaign=mandiner_201704). その後、英文でも投稿した。 *About Hungary* [2017年4月25日] Mária Schmidt, "The Gravedigger of the Left" (<http://abouthungary.hu/blog/the-gravedigger-of-the-left>).

(3) *Ibid.*, ハンガリー語版 p. 3. 英語版 p. 2.

(4) *Ibid.*, ハンガリー語版 p. 9. 英語版 p. 4.

(5) *Ibid.*, ハンガリー語版 pp. 9-10. 英語版 p. 5.

(6) *Ibid.*, ハンガリー語版 p. 6. 英語版 p. 3.

(7) *Ibid.*, ハンガリー語版 p. 9. 英語版 p. 5.

Lehet Más a Politika [別な政治もあり得る] 党は2009年設立の中道左派政党。環境保護を目的とした緑の党の系譜。CEUの準教授であるメセリッチは、2014年からヨーロッパ議会の議員。Együtt – a Korszakváltók Pártja [みんなで時代を変える] 党は2013年設立のリベラル左派政党。セレーニィはフィデスの元黨員。

(8) ハンガリー政府の公式ウェブサイト *Kormányzat* [2014年7月28日] "A munkaalapú állam korszaka következik" [勤労に基づく国家の時代が来た] (<http://www.kormany.hu/hu/a-miniszterelnok/beszedek-publikaciok-interjuk/a-munkaalapu-allam-korszaka-kovetkezik>). 英語版は *Website of the Hungarian Government* [2014年7月30日] "Prime Minister Viktor Orban's Speech at the 25th Bálványos Summer Free University and Student Camp" (<http://www.kormany.hu/en/the-prime-minister/the-prime-minister-s-speeches/prime-minister-viktor-orban-s-speech-at-the-25th-balvanyos-summer-free-university-and-student-camp>).

(9) *Ibid.*, ハンガリー語版 p. 2. 英語版 p. 2.

(10) 自由民主連盟は2002年、社会党と再び連立したが、2008年に政権を離脱し、翌年のEU議会選挙と2010年の国内総選挙で惨敗した後、消滅した。

(11) ハンガリー政府の公式ウェブサイト、ハンガリー語版 p. 3. 英語版 p. 3.

(12) *Ibid.*

(13) *Ibid.*

(14) *Ibid.*, ハンガリー語版 p. 2. 英語版 p. 2.

(15) *Ibid.*, ハンガリー語版 pp. 2-3. 英語版 p. 3.

(16) *Ibid.*, ハンガリー語版 pp. 3-4. 英語版 p. 3-4.

- (17) *Válasz* [2014年6月26日] Schmidt Mária "A múlt fogságában" [過去のしがらみの中で] (<http://valasz.hu/publi/a-mult-fogsagaban-101365>).
- (18) *Ibid.*, p. 1.
- (19) *Ibid.*, pp. 3-4.
- (20) *Ibid.*, p. 2.
- (21) *Ibid.*, p. 1.
- (22) *Ibid.*, pp. 3-4.
- (23) Jeszenszky Géza, *Kísérlet a trianoni trauma orvoslására: Magyarország szomszédsági politikája a rendszerváltás éveiben* [トリアノン症候群の治療に向けて] (Budapest: Osiris, 2016), p. 347.
- (24) *Élet és Irodalom* [2012年10月5日] Jeszenszky Géza, "A vézkorszak mint kettős tragédia" [二重の悲劇としてのホロコースト] (<https://www.es.hu/cikk/2012-10-05/jeszenszky-geza/a-vezkorszak-mint-ketto-tragedia.html>).
- (25) 国家機関とハンガリー国民によるユダヤ人資産の収奪は、Ronald W. Zweig, *The gold train. The destruction of the Jews and the looting of Hungary* (New York: William Morrow, 2002) 拙訳『ホロコーストと国家の略奪』（昭和堂、2008年）に詳しい。
- (26) Jeszenszky, "A vézkorszak mint kettős tragédia" [二重の悲劇としてのホロコースト] p. 2.
- (27) *Ibid.*
- (28) Schmidt, "A múlt fogságában" [過去のしがらみの中で] p. 5.
- (29) Schmidt Mária, "A magyar zsidóság a második világháború idején (1944 nyaráig)" [第二次大戦下のハンガリー系ユダヤ人社会] Füzfá Balázs・Szabó Gábor eds., *A zsidókérdésről* [ユダヤ人問題について] (Szombathely: Németh László Szakkollégium, 1989), pp. 39-46.
- (30) Schmidt Mária, *Diktatúrák ördögszekerén* [独裁は悪魔の馬車でやって来る] (Budapest: Magvető, 1998).
- (31) 労働奉仕隊は武器を供与されないで東部戦線に派遣され、1942年から1943年にかけての冬、約4万3000人が戦闘行為や過酷な天候や上官の残忍さの犠牲になった。Prepuk Anikó, *A zsidóság közép- és kelet-Európában a 19-20. században* [中・東欧のユダヤ人] (Debrecen: Csokonai Kiadó, 1997), p. 160. 拙訳『ロシア、中・東欧ユダヤ民族史』（彩流社、2004年）182頁。
- (32) Schmidt Mária, "A holocaust helye a magyar zsidóság modernkori történetében (1945-1956)" [ハンガリー系ユダヤ人の近現代史におけるホロコーストの位置] Schmidt, *Diktatúrák ördögszekerén* [独裁は悪魔の馬車でやって来る] pp. 54-84 (<http://www.magyarholokauszt.hu/mh011190.html>), p. 2.
- (33) "Magyarország alaptörvénye" [ハンガリー基本法] 2011 április 25 (<http://www.parlament.hu/irom39/02627/02627.pdf>), p. 1.
- (34) *Népszabadság* [2011年5月31日] Jeszenszky Géza, "Az alaptörvény és a magyar történelem" [基本法とハンガリーの歴史] (http://nol.hu/velemeny/20110531-az_alaptorveny_es_a_magyar_tortenelem-1086641), p. 2.
- (35) ヨッピック副党首のバルツォー・ゾルトンは、フィデス政権がヨッピックの政策を横取りす

ると不満を露わにした。MTI (2012年8月17日) 配信 "A Jobbik határozottabb fellépést vár a kormánytól" [ヨッビクは政府の断固たる措置を待つ] *Népszava online*, (<http://nepszava.hu/articles/article.php?id=577831>).

(36) Fareed Zakaria, "The Rise of Illiberal Democracy", *Foreign Affairs* (November/December, 1997), p. 42.

(37) *Magyar Hírlap* [2018年5月2日] Nagy Ervin, "Az illiberalizmus védelme" [非リベラリズムを擁護する] (http://magyarhirlap.hu/cikk/117070/Az_illiberalizmus_vedelme), p. 2.

(38) Gábor Győri et al., "Hungarian Politics in 2018" (Budapest: Friedrich-Eber-Stiftung & Policy Solutions, 2019), (https://www.policysolutions.hu/userfiles/Hungarian_Politics_in_2018_web.pdf), p. 9.

(39) *Ibid.*, p. 2.

(40) Gábor Győri et al., "Hungarian Politics in 2017" (Budapest: Friedrich-Eber-Stiftung & Policy Solutions, 2018), (https://www.policysolutions.hu/userfiles/Hungarian_Politics_in2017_web.pdf#search='Hungarian+Politics+in+2017'), p. 16.

(41) Győri et al., "Hungarian Politics in 2018", p. 9.

(42) Győri et al., "Hungarian Politics in 2017", p. 27. Győri et al., "Hungarian Politics in 2018", p. 7.

(43) *Blikk* [2016年4月21日] "Kitört a háború a Jobbik vezetésében" [ヨッビク執行部で抗争] (<http://www.blikk.hu/kitort-a-haboru-a-jobbik-vezeteseben/vcxbfy>).

(44) Győri et al., "Hungarian Politics in 2017", p. 28.

(45) *Ibid.*

(46) Győri et al., "Hungarian Politics in 2018", p. 28.

(47) *Ibid.*, pp. 7-8.

(48) オルバンのホームページ「フィデスの第二回党大会」(http://2010-2015.miniszterelnok.hu/in_english_article/the_21st_congress_of_fidesz).

(49) Fidesz, "A Nemzeti Együttműködés Programja" [国民的協和綱領] (http://2010-2015.miniszterelnok.hu/attachment/0009/8616_00047.pdf), pp. 8-9; "The Programme of National Cooperation" (http://www-archiv.parlament.hu/irom39/00047/00047_e.pdf), pp. 9-10.

オルバンは非リベラル国家宣言の中で、「勤労に基づく国家」という別称を用いているが、国民的協和綱領の第三部第一章「ハンガリー経済の活性化」の副題は、「勤労に基づく経済・社会・国家」である。*Ibid.*, ハンガリー語 p. 17, 英語 p. 18.

(50) *Ibid.*, ハンガリー語 p. 12, 英語 p. 13.

(51) *Ibid.*, ハンガリー語 p. 16, 英語 p. 17.

(52) *Ibid.*

(53) *Ibid.*, ハンガリー語 p. 39, 英語 p. 38.

(54) *Ibid.*, ハンガリー語 p. 16, 英語 p. 17.